

団体・大学等からの意見・提案

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	該当箇所	意見	対応	具体的な反映状況・考え方
1	P03 第3章	自然分野の充実を図りたい ・県内の他の博物館の多くが歴史や考古など人文関係のものであり、県内に自然系の博物館が非常に少ないのは周知の事実であります。基本構想では新県立博物館の性格は「総合博物館」とありますが、自然分野の充実を図り、三重県の自然を調査研究・学習する拠点施設として、施設及び人材の充実を図ってほしい。	B	自然と歴史・文化は切り離せないものであり、新しい“総合”の視点で活動を展開していきます。なお、県内には自然分野を専門とする博物館が少ないことから、自然分野の活動についても、できるだけ充実を図っていきたく考えています。
2	P05 第1章、全般	「新博物館の使命」は、大学の使命とも共通する面が多い。また、新博物館との連携は、大学の教育・研究・社会連携推進の観点からも有意義であり、大学としては新博物館の整備・運営に積極的に協力し、また長期的な連携関係を発展させていくことを望んでいる。本学としても、既に附属図書館研究開発室等が県立博物館、県史編さん室との連携を実施し、また博学連携の推進に関する検討をおこなっているところである。	A	大学との連携については、基本計画の第6章にも記述したとおり、今後具体的に進めていくこととしています。
3	P07 第2章	新博物館のテーマは、三重が持つ「多様性の力」とあるが、このフレーズは、北海道から沖縄まで、我が国の何れの県でも通用するキャッチフレーズで具体性がない。三重県立博物館の果たすべき機能とはどのようなものであるかを、既存の各種博物館機能をもつ施設等（美術博物館・斎宮歴史博物館・公文書館・図書館）の果たすべき機能をならべ、今一度整理する必要がある。このキャッチフレーズでは、単に“総合博物館”を作るための、つじつまあわせの「テーマ」にみえる。多様性の具体的な内容を示さないと、三重県が必要としている博物館の本当の姿が見えてこない。	B	関係施設との役割分担については、別途検討を進めることとしています。テーマの具体化につきましては、今後の展示の設計等の中で検討を進めていきたいと考えています。
4	P18 第4章	基本的な活動計画については、三重県民・利用者に関かれ・連携していく博物館であることは当然のことだ。ただ、調査研究活動についてのキャッチフレーズ「みんなで見つける三重の魅力」とあるが、このことを実現させるために、新博物館では、三重県の自然・歴史・文化に関する“自主的”で充実した調査研究活動が求められている（大学の研究室に匹敵する設備と人材が必要）。これは、県民の協力だけで実現するようなものではない。そうでないと、現博物館の現状を是認し、継承することになるように見えてならない。新博物館の調査研究活動については、大学の研究室に匹敵する体制と独自性が必要で、それがなければ、インターンシップや専門実習の場としても、利用できない。三重県の「自然・歴史・文化」を十把一絡げにして、三重の魅力をみんなで見つけることが、少ない予算のなかで、いかに大変なことなのか、あまり認識されていないように思う。博物館は、見物人が沢山集まってくるアミューズメント施設ではない。覚悟を決めてかかる必要がある。	B	基本計画では、調査研究活動をあらゆる博物館活動の根幹となる活動として位置付け、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える観点で調査研究を行うこととしています。そのため、調査研究の体制についても、専門職員による専門的な研究体制を確保し、「協創」と「連携」の視点によって調査研究活動を幅広く展開する所としたところです。厳しい財政事情の中ではありますが、そのための人材や設備の確保に努めてまいりたいと考えています。

団体・大学等からの意見・提案

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	該当箇所	意見	対応	具体的な反映状況・考え方
5	P 1 8 第4章	<p>学校教育にも直接役立つ展示構成としてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県の自然の特徴や魅力を紹介する展示はもちろんのこと、小中高の学校教育に役立つよう、教育内容に即した展示を取り入れてほしい。（例）地球と生物の進化の歴史やしぐみ、自然や生態系のしぐみ、生物の分類 など ・展示にあたっては、三重県産の実物を効果的に展示していただき、三重県を再発見する場としてほしい。 ・展示を用いた学習活動が行えるように、展示室にも十分なスペースを確保するとともに、子どもたちにとってわかりやすく興味を引く展示の工夫、運営方法を考えてほしい。 	B	<p>基本計画では、未来を担う子どもたちの育成に寄与するために、学校利用への対応や、体験・体感型の手法の導入など、子ども学習に配慮した展示とすることを展示にあたり大切にしたい点として位置づけています。</p> <p>今後、展示の具体的な内容を検討する中で、学校や児童・生徒のニーズ把握や、学校関係者との意見交換など、学校教育とも連携しながら進めてまいります。また、子ども会議（仮称）などを設け、子どもたちのアイデアや要望も取り入れていきます。</p>
6	P 1 8 第4章	<p>県産のものはすべてを目標に資料収集活動を行ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちや教員からのレファレンスに応えられるように、県内の動植物や岩石化石などについてはすべての種類を収集することを目標に資料収集を行ってほしい。 ・資料保存のために十分な収蔵施設を確保してほしい。 ・収集した資料はそのデータベース化と公開、さらに貸し出し可能な資料については、学校での実物教材として貸し出しをしてほしい。 ・県内の貴重な資料が、県外に流出しないように、その受け入れを万全にしてほしい。 	B	<p>博物館における資料の収集保存とその活用は、博物館活動の基本であり、博物館だからこそ果たせる機能と考えています。なお、具体的な資料収集の方針や内容については、ご提案をいただいた事項を含めて、今後の検討してまいります。</p>
7	P 1 8 第4章 P 4 7 第6章	<p>新博物館は、三重県における自然・歴史・文化に関する「知」の拠点であり、そこに集積された情報・資料は、様々な分野で活用されるものだが、近年、社会的に要求が高まっている地球環境保全の基礎資料としての「自然」に関する資料・情報が、非常に価値の高いものとして評価されている。ことに三重の自然に関するさまざまな現有の基礎資料（各種生物の標本等）は、わが国が定めた新野生生物の多様性保全戦略で、県・市・町・村など地方自治体に課せられている野生生物多様性保全の責務（まだ十分には理解されていない）を果たすための重要な基礎資料として、収集・保存が必要だ。これらは、古文書や文化財などの歴史・民俗資料と比較して、その重要性が理解されていないが、自然環境に関する基礎資料の収集・整理ならびにその情報の発信においては、博物館の果たす役割が非常に大きく、今後、新博物館の重要な仕事になっている。県行政組織の関連分野（環境森林部や科学技術振興センターほか）などとの交流も含め、博物館における自然関連分野の体制整備と人材の充実がともに求められている。三重県行政における、各部局の既得権益に縛られずに、柔軟に対応が出来る体制(新博物館)づくりが必要と思う。</p>	B	<p>新県立博物館では、三重の自然と歴史・文化の資産の保全・継承と活用を果たすべき使命の柱の一つとして位置付けており、資料の収集・保存にあたっては、県立の博物館として中心的な役割を果たす観点で取り組むこととしています。またそのために必要な人材や設備の充実にも努めてまいります。なお、ご指摘のように、三重の自然に関する標本の保存と活用は、生物多様性や自然環境など点からも重要なことであり、関係部局や諸機関、諸団体とも連携しながら、県立の博物館として、全県的な視野に立った積極的な取り組んでいきたいと考えています。</p>

団体・大学等からの意見・提案

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	該当箇所	意見	対応	具体的な反映状況・考え方
8	P20 第4章 4-3 (2)	「収集保存の対象」の「新県立博物館の引き継ぐ資料」として、現県立博物館資料および県史編さん室資料が挙げられている。公文書館機能を持つ博物館とし、文書に関する保存・管理の専門的人員を配置するのであれば、県立図書館の所蔵する文書資料類も新県立博物館に移管し、一元的な管理と閲覧、調査研究が行える事が望ましい。	B	新博物館では、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉えた博物館活動を展開することとしており、収集保存活動にあたっては、三重の履歴・ありようを理解するために必要な自然と歴史・文化に関する資料をその対象として位置付けています。また、多様な主体との「連携」により博物館活動を進める観点から、県の文化振興拠点とも、使命・役割やそれぞれの専門性に基づく役割分担や連携活動に努めることとしています。今後、ご提案の点も含めて、各施設と十分な協議を行いながら、博物館整備に取り組んでまいりたいと考えています。
9	P29 第4章 、P52 第7章	野外展示は自然観察、里山保全、再生活動などを通して自然とその大切さを体感できるものとして構想されており、内容は限定的である。しかしながら、農業や窯業など特色ある地場産業の体験学習、民俗芸能上演、現地で保存が困難な民家等の文化財の移設やこれを活用した生活行為の体験学習の場など、より多面的に野外を利用できる事が望ましい。	B	基本計画における展示活動の記述は、基本的な考え方を示したものです。したがって、野外展示の内容については、ご提案の点も含めて、今後、全体的な展示計画の中で、具体的な検討を進めてまいりたいと考えています。また、博物館の活動を館外に広げるアウトリーチ活動の一環として、県民・利用者のみなさんとの協創や、県内博物館や学校、公民館との連携により県内各地で展示をはじめとする活動を行うことにしています。
10	P36 第5章	新博物館は、県内外の博物館、大学等とも連携を保つ、地域研究に関する拠点施設として期待される。自館の活動成果を紀要等の形で発信することは、当然であるが、これとともに、新博物館を母体として三重県域を主対象地域とする地域研究に関する学会を設立し、地域研究を行う人材が幅広く交流できる環境を整える事が望ましい。このような例に徳島県立図書館に事務局を置き、県立研究機関や徳島大学等が連携する阿波学会などがある。	B	新県立博物館では、多様な主体との「連携」により博物館活動を展開することとしており、県内外の博物館や大学等との連携に積極的に取り組んでいくこととしています。今回ご指摘いただきました地域研究の拠点としての活動につきましては、今後、関係機関とも積極的に検討してまいりたいと考えています。

団体・大学等からの意見・提案

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	該当箇所	意見	対応	具体的な反映状況・考え方
11	P 3 6 第5章	新博物館の特徴のひとつとして、総合文化センターとの連携を重視とあるが、その内容がはっきりしない。建設場所を決めるためだけの理由なのか、図書館（収蔵・整理施設の一種）、展示ホール、会議室など、博物館の施設内容にも係わるものなのかははっきりしない。内容にかかわるものであれば、近くにある県立美術館や斎宮歴史博物館等との密接な連携をもっとはっきりとさせるべきものとする。それによって、博物館の内容と規模がより具体的になると思う。限られた予算の中で充実した博物館にするためには、この点が重要と考える。	B	ご指摘のように県の文化振興拠点との役割分担や連携のあり方は重要な課題と考えており、基本計画においてもこれらについての記述を加えたところです。なお、その具体的な内容については、今後、各施設とも協議を進めながら検討を進めていきます。
12	P 4 7 第6章 6 - 1、6 - 2	学校との連携を図り、教育にかかわる事業を積極的に企画・実施していただきたい ・学校の要請に応じた多様な出前授業等の企画と実施 ・県内の生物部などの自然を研究対象としたクラブ活動については以前に比べると全般的に低調な状況にある。しかし、自然に関心をもつ生徒は少なからずいて、その活動の場や指導者を求めているが、1学校では難しい状況にある。そこで、これら自然に関心をもつ生徒の活動の場や研究発表の場の提供をしていただければと考える。 ・学校教育においても、博物館同様、実物の力は大きいものがある。しかし、予算的な制約もあり各学校において実物教材を充実させる難しい状況だ。授業に利用できる貸し出し可能な資料については、積極的な貸し出しができるよう期待する。	A	新博物館では、多様な主体との連携により博物館活動を進める観点から、学校教育との連携を積極的に進めていくこととしています。そのために、今回ご提案いただいたものも含めてさまざまな取組を想定しているところです。今後、教育委員会、学校現場、教育関係団体等とも協議しながら、具体的な連携内容について検討していきます。
13	P 5 1 第7章	博物館での授業が行えるような施設設備を充実してほしい ・博物館で小中高生が、校外活動などをおして、クラスごとに講義や実習ができる目的に応じた複数の研修室や実習室を設置してほしい。 ・理科教育にとっては野外での学習活動が不可欠です。そのための付属施設として野外のフィールドを備えてほしい ・学校にはない機器（電子顕微鏡等）を設置するとともに、それらを直接子どもたちが操作できるように企画を入れてほしい。	B	学校の受入については特に必要な機能と考え、研修・ガイダンスルームやワークショップ・実験実習室をフレキシブルに活用し、授業も行えることを想定しています。また、野外のフィールドについては、敷地内の里山林を利用した、自然観察や里山保全活動などを考えています。施設設備の具体的な内容については、設計段階で検討していきます。
14	P 6 2 第8章	収集保存活動や情報発信活動は、調査研究活動の流れの中で、学芸員等が担当するのは当然だ。総合博物館を目指すならば、自然・歴史・文化の各分野に相当数の学芸員を充実する必要があるが、現実には、既存の施設との連携が求められる。自然・歴史・文化それぞれの分野に専門性の高い学芸員が、既存の県内施設にどのくらい存在するかを勘案しながら学芸員数を決める必要がある。なお、現博物館においては、自然科学に関する学芸員が少なく、充実が求められる。	B	総合博物館として、学芸員については、自然系・人文系の各専門分野や各分野を横断する総合的・学際的な分野のほか、三重の資産保全の推進や、県内の博物館の支援のための資料の保存・修復など、多様な専門分野に対応できる職員を配置しますとしています。具体的な各分野の職員配置については、活動内容を検討していく中で、計画していきます。

団体・大学等からの意見・提案

「新県立博物館基本計画」への反映状況・考え方

番号	該当箇所	意見	対応	具体的な反映状況・考え方
15	P 6 2 第 8 章	<p>組織やスタッフの充実を図ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然部門の専門的知識や経験を有するスタッフの充実を図られたい。植物、動物、地学の各分野や主な分類群について、複数名の学芸員を配置してほしい。 ・博物館での教育活動を推進するために教育部門を設け、小中高の理科教員を配置など、学校との連携がスムーズの図れるようにしていただきたい。 ・大学との連携をもち、高度な調査研究活動や教育活動が行えるようにしてほしい。 ・現在、県下各地の自然を調査研究し、子どもたちのそれらを伝えようとしている方がみえるが、高齢化し、その後を継ぐ人材が非常に少なくなっている。たとえば学校との人事交流などを通じて、地域の自然を調べ、学校や地域の教育に役立たせることができる人材の養成に博物館が役割を果たしてほしい。 	C	<p>「ともに考え、活動し、成長する博物館」運営の実現に向けて、地域の多様な人や機関・団体など一体になって博物館活動を進める体制・しくみを整えることが必要です。このため、多様な主体と協力、連携して、充実した博物館活動を展開していくことができる能力をもった人材を、職員として配置していくとともに、職員の育成や能力・資質の向上をはかっていく必要があると考えています。ご意見をふまえ、今後は開館に向けて、人材育成をはじめ、基本計画に示された方向にそって、具体的な取組を着実に進めていくようにします。</p>
16	P 7 1 第 9 章 9 - 2	<p>財政難のおりから、120億円もの多大な経費をかけて整備するものであるから、もっと県民に広く知らせる工夫と努力が必要だ。骨格が決定されるまでにその努力をお願いする。県民の声が反映され、関心が高まる中で整備すべきものである。</p>	B	<p>新博物館は、「すべての活動を県民・利用者に関く」博物館をめざしています。そのためには、県民の皆さんの新博物館に対する関心や理解、気運を高める取組が必要と認識しており、今年度も県民意見交換会やパブリックコメントの実施、シンポジウム、新博物館ニュース等による広報を行っています。開館に向けた広報計画や県民参画のしくみについては、今後の博物館整備の中で、検討します。</p>
17	全体	<p>博物館の計画及び運営に関し、継続して意見交換ができるようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館開館後は、多くの児童・生徒が利用者となるものと考えられます。新県立博物館は、使い勝手がよく、充実した活動ができるなど、児童・生徒に進んで利用を推奨できるような施設であることが不可欠だ。このため、博物館の計画及び運営に関し、継続して意見交換し設置者と議論できる場や体制を整えてほしい。 	B	<p>県民・利用者の皆さんとともにつくる博物館のための仕組みづくりにつきましては、今後の博物館整備の中で検討します。</p>
18	全般	<p>今回の計画にはたいへん関心をもっているところだ。博物館は、理科教育や自然教育にはなくてはならない存在であると考えている。</p>	B	<p>環境学習等については、活用発信活動の中で取り組んでいきたいと考えています。</p>